

社会デザイン研究科 2026 年度教員プロフィール

教員名	研究テーマ・略歴等
<p>倉本 由紀子 クラモト ユキコ 教 授</p>	<p>立教大学社会デザイン研究科・社会学部教授。立教大学社会学部卒業。米国ピッツバーグ大学大学院国際関係学大学院修士号 (M.A.) 取得。米国ジョージ・ワシントン大学政治学大学院博士号 (Ph.D.) 取得。米国アラム大学助教授、マイアミ大学客員助教授、立教大学 AIIC・社会学部特任准教授、中央大学社会科学研究所客員研究員を経て現職。専門は、国際関係論、社会開発、ジェンダー論、グローバル官民パートナーシップなど。共著『現代社会の信頼感』(2018、中央大学出版部)、分担執筆「開発リスクとジェンダー」郭洋春編著『開発リスクの政治経済学』(2013、文眞堂)、単著 Japan's Foreign Aid Policy for Asia: Ideas of Economic Development and Institutions. (2003、George Washington University)、「ジェンダー不平等指数 (GII) 分析とジェンダー・エンパワーメント尺度 (GEM) 修正版の試み」『国際ジェンダー学会誌』第 10 号 (73~93 頁)、他 研究論文多数。</p>
<p>長坂 俊成 ナガサカ トシナリ 教 授</p>	<p>立教大学大学院社会デザイン研究科・社会学部教授。中央大学法学部政治学科卒業、筑波大学大学院経営政策科学研究科修了 (法学修士)。コンサルティングファーム、(社) トロン協会、(株) 住信基礎研究所、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科助教授、(独) 防災科学技術研究所主任研究員を経て現職。(一社) 日本モバイル建築協会代表理事、(株) スタンバイリーグ代表取締役を兼務。専門：リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害情報、空間情報科学、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、モバイル建築。主な著書等：「モバイル建築の現状と普及に向けた課題～応急仮設住宅の社会的備蓄を中心として」(2022 Journal of Timber Engineering Vol.35.No.2 木質構造研究会)、『リスク学事典・日本リスク研究学会編』(2019 丸善出版 編著)、『デジタルアーカイブ・ベーシック 1 権利処理と法の実務』(2019 勉誠出版 共著)、『アーカイブ立国宣言』(2014 ポッド出版 共著)『記憶と記録—311 まるごとアーカイブス (叢書震災と社会)』(2012 岩波書店)、『地域発・防災ラジオドラマづくり—知恵と絆で高める防災力』(2011 NHK 出版 共著)、『コンバージョン、SOHO による地域再生』(2005 学芸出版社、共著)、『電子市民会議室のガイドライン—参加と協働の新しいかたち—』(2004 学陽書房 共著) 等。</p>
<p>大熊 玄 オオクマ ケン 教 授</p>	<p>立教大学社会デザイン研究科・文学部教授。立命館大学史学科卒業。金沢大学大学院修士課程 (哲学専攻) 修了。同大学院博士後期課程満期退学。インド・ブネー大学大学院 (サンスクリット学科) 国費留学。金沢大学非常勤講師、石川県西田幾多郎記念哲学館専門員・学芸課長を経て、現在、同館副館長。西田哲学会理事。編著『西田幾多郎の世界』(西田哲学館)。単著『実在とは何か』『善とは何か』(新泉社)、『鈴木大拙／大拙の言葉』(金沢市)、『鈴木大拙の言葉世界人としての日本人』(朝文社)、『はじめての鈴木大拙』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)。共著『鈴木大拙と日本文化』(朝文社)。</p>
<p>長 有紀枝 オサ ユキエ 教 授</p> <p>2026 年度研究休暇</p>	<p>立教大学大学院社会デザイン研究科・社会学部教授。認定 NPO 法人難民を助ける会 (AAR) 会長。東京大学大学院総合文化研究科客員教授。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。同大学院政治学研究科修士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム博士課程修了。博士 (国際貢献)。専門はジェノサイド研究、移行期正義、人間の安全保障など。著書に『増補改訂版 入門 人間の安全保障』(2021 中央公論新社)、『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』(2009 東信堂)、『地雷問題ハンドブック』(1997 自由国民社)、編著に『スレブレニツァ・ジェノサイド 25 年目の教訓と課題』(2020 東信堂)、他に論文、共著本多数。</p>

教員名	研究テーマ・略歴等
中 森 弘 樹 ナカモリ ヒロキ 准 教 授	<p>立教大学社会デザイン研究科・文学部准教授。京都大学総合人間学部卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科単位取得退学。博士（人間・環境学）。主に社会問題としての失踪に焦点を当て、関係者へのインタビューを中心とした多角的な調査研究を行ってきた。近年は、親密性／圏にかかわる諸問題を、より広く研究している。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学非常勤講師、21世紀社会デザイン研究科助教等を経て、現職。日本社会病理学会理事。NPO 法人日本行方不明者捜索・地域安全支援協会理事。著書（単著）に『「死にたい」とつぶやく』（慶應義塾大学出版会）、『失踪の社会学— 親密性と責任をめぐる試論』（慶應義塾大学出版会。日本社会学会第 17 回奨励賞〔著書の部〕および日本社会病理学会学術奨励賞〔出版奨励賞〕受賞）がある。ほか、論文・共著本多数。</p>
河 口 眞 理 子 カワグチ マリコ 特 任 教 授	<p>三菱化工機社外取締役。相模屋食料 CEO アドバイザー。アセットマネジメント One サステナビリティ諮問会議アドバイザー。アナリスト協会検定会員。一橋大学大学院修士課程修了後大和証券入社。大和証券グループ本社CSR室長、大和総研研究主幹などを経て現職。企業の立場（CSR）、投資家の立場（ESG 投資）、生活者の立場（エシカル消費）のサステナビリティ全般に関し 20 年以上調査研究、提言活動に従事。国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、日本サステナブル投資フォーラム理事、エシカル推進協議会理事、WWF ジャパン理事、環境省中央環境審議会臨時委員などもつとめる。著書「ソーシャルファイナンスの教科書」生産性出版、「SDGs で『変わる経済』と『新たな暮らし』」生産性出版など。</p>
丸 山 俊 一 マルヤマ シュンイチ 特 任 教 授	<p>NHK エンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー／東京藝術大学客員教授。慶應義塾大学経済学部卒業後、NHK 入局。様々な教養番組、ドキュメンタリーをディレクターとして取材、構成。「英語でしゃべらナイト」「爆笑問題のニッポンの教養」「ソクラテスの人事」「仕事ハッケン伝」「ニッポン戦後サブカルチャー史」「ニッポンのジレンマ」「人間ってナンだ？ 超 AI 入門」「欲望の資本主義」「世界サブカルチャー史 欲望の系譜」「地球タクシー」「ネコメンタリー猫も、杓子も。」などを企画開発、制作統括。著書『ハザマの思考』（講談社）、『これからの時代を生き抜くための資本主義入門』（辰巳出版）、『14 歳からの資本主義／個人主義』（大和書房）、『働く悩みは「経済学」で答えが見つかる』（SB 新書）他。共著『マルクス・ガブリエル 欲望の時代を哲学する I～ III』『AI 以後』（NHK 出版新書）『欲望の資本主義 1～5』（東洋経済新報社）他。</p>
武 藤 亜 子 ムトウ アコ 特 任 教 授	<p>独立行政法人国際協力機構（JICA）緒方貞子平和開発研究所専任研究員。JICA での実務経験を経て、JICA 緒方研究所の平和構築と人道支援領域にて、平和構築、人間の安全保障、ジェンダー等に関する研究に従事。単著『人道的対応とは何か—シリア紛争の教訓』（2026 法律文化社）、「紛争中の自然災害—シリアにおける複合危機の発生から人間の安全保障への示唆」（2024 JICA 緒方研究所レポート『今日の人間の安全保障』（2）. pp. 42-56）、共編著 Adaptive Peacebuilding: A New Approach to Sustaining Peace in the 21st Century (2023 Palgrave Macmillan)。他に論文、共編著書多数。</p>
滝 口 直 樹 タキグチ ナオキ 特 任 教 授	<p>（同）環境活動支援工房代表社員。武蔵野大学環境学研究科客員教授。地球環境基金助成アドバイザー。東京大学法学部卒業。1988 年環境庁（当時）に入庁、生物多様性保全、気候変動、協働・パートナーシップなどに関わる政策立案、法案づくりに従事する。1995～97 年国連開発計画（UNDP）ワルシャワ事務所勤務（JPO）。外務省（COP3 京都会議準備室）、中央省庁等改革推進本部、（独）環境再生保全機構石綿健康被害救済部への出向などを経て 2011 年より現職。地球環境基金などで市民活動支援に携わる一方、慶應大学法科大学院、麻布大学、桜美林大学等で環境政策を教える。様々なバックグラウンドを持つ越境的研究者集団である、未来の学びと持続可能な開発・発展研究会（みかく SD 研）メンバーとしても活動している。</p>

教員名	研究テーマ・略歴等
中野 佳裕 ナカノ ヨシヒロ 特任准教授	<p>略歴：開発と消費社会のグローバル化が引き起こす複合的危機（南北問題、気候変動、生物文化多様性の破壊、格差拡大、幸福の逆説、コミュニティの衰退 etc）の総合的検証、および持続可能な世界への移行（トランジション）を構想する未来社会デザインを研究している。主な研究領域は、（１）社会発展パラダイムの哲学的検証、（２）開発と消費社会のグローバル政治経済学的分析、（３）ローカルな変革運動、コミュニティ経済実践の研究、（４）脱開発・脱成長トランジション・デザイン研究。</p> <p>経歴：英国サセックス大学社会科学とカルチュラル・スタディーズ研究科開発学博士課程修了（DPhil）。国際基督教大学非常勤講師、早稲田大学地域・地域間研究機構次席研究員を経て、現在に至る。各地で市民講座・ワークショップの企画運営も務める。</p>
西井 開 ニシイ カイ 特任准教授	<p>立命館大学大学院人間科学研究科修了。博士（人間科学）。臨床社会学やマジョリティ研究の視点から男性の心理社会的問題について研究している。近年は、DV、ストーキング、ハラスメントなど親密圏および組織内で生じる男性の暴力について、臨床現場での経験を踏まえながら探究している。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、現職。臨床心理士。公認心理師。一般社団法人 UNLEARN 理事。日本臨床心理士会バイオレンス・ハラスメント委員会委員。著書（単著）に『転落男性論：孤立、暴力、ホモソーシャル』（金剛出版）、『「非モテ」からはじめる男性学』（集英社新書）がある。</p>
佐藤 李青 サトウ リセイ 特任准教授	<p>専門は文化政策、文化行政、アートマネジメント、災間文化論。2011年から2025年まで、公益財団法人東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京のプログラムオフィサーとして、NPO、行政等が連携する地域の文化事業に中間支援の立場で関わる。東日本大震災後は芸術文化による被災地支援事業に従事。現代社会を“災間”と捉え、芸術文化活動の可能性を探る実践と研究を行う。一般社団法人 associations 代表理事。単著『震災後、地図を片手に歩きはじめる』、共著『10年目の手記』、『文化政策の現在』、『アートプロジェクトのつくりかた』ほか。</p>
東浦 亮典 トウウラ リョウスケ 特任准教授	<p>東急株式会社常務理事、株式会社東急総合研究所代表取締役社長。東急株式会社では、主に都市開発系新規事業開発などを担当。「南町田グランベリーモール」の企画開発、創発団体「クリエイティブ・シティ・コンソーシアム」の立ち上げ運営、横浜市との協働による「次世代郊外まちづくり」、「渋谷スクランブルスクエア第Ⅰ期東棟」の開業、エリアマネジメントなど手掛ける。著書に「私鉄3.0」（ワニブックス PLUS 新書）、「東急百年」（ワニブックス）</p>
川本 彩花 カワモト アヤカ 助 教	<p>専門は社会学・文化社会学。文化・芸術のなかでもとくに「音楽」を対象として社会学的研究を行っており、現在は、音楽が現代社会の抱える諸問題・課題の解決に資する可能性を考察することをテーマとしている。具体的には、音楽を活かした子どもの育成支援やまちづくりに関する取り組みの実践事例を中心に取り上げながら、詳細な調査を実施することを通して、このテーマについて研究を進めている。また、以上に加えて、人びとの趣味・嗜好、文化をめぐる今日の状況や、広く社会学理論・学説の教科書における社会学者の伝記的背景の記述のあり方などについても検討を行っている。</p>

■その他の科目担当者

教員名	研究テーマ・略歴等
ニノ宮リム さち ニノミヤリム サチ 教 授	立教大学環境学部・大学院社会デザイン研究科教授。国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業。グリフィス大学豪州環境学スクール・環境教育修士。東京農工大学大学院連合農学研究科・博士（農学）。マレーシア・サバ州森林局（青年海外協力隊・環境教育）や、「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（ESD-J）等NPOでの活動後、2008年より大学を拠点にし、持続可能な社会づくりにつながる教育を実践・研究。現在、東海大学環境サステナビリティ研究所所員、日本環境教育学会理事・国際交流委員長、日本ESD学会国際交流委員、民主教育研究所運営委員、環境省・日中韓環境教育ネットワーク（TEEN）国内委員、東京都昭島市社会教育委員、NPO法人エコ・コミュニケーションセンター理事、昭島渋滞シミュレーション製作委員会共同代表等。令和5年度環境教育等推進専門家会議座長。著書に『社会教育・生涯学習入門—誰ひとり置き去りにしない未来へ』（2023、人言洞、共編著）『地域から学ぶ・世界を創る』（2024、学文社、共編著）等。他共著書・論文多数。
細川 淳 ホソカワ アツシ 客 員 教 授	（一社）従業員所有事業協会代表理事。跡見学園女子大学マネジメント学部教授。（株）コア・ドライビング・フォース社長。立教大学21世紀社会デザイン研究科前・後期課程修了。社会デザイン学博士。30超の国際ブランド事業開発に従事、日英合弁会社CEOを経て現職。企業のコーオウンド化指導、エシカル・ビジネス企業の経営指導を行う。著書「コーオウンド・ビジネス—従業員が所有する会社」（築地書館）「半市場経済」（共著・角川新書）
稲葉 剛 イナハ ツヨシ 客 員 教 授	一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表。1969年広島県生まれ。1994年より東京・新宿を中心に路上生活者の支援活動に関わる。2001年、自立生活サポートセンター・もやいを設立。幅広い生活困窮者への相談・支援活動を展開し、2014年まで理事長を務める。2014年、つくろい東京ファンドを設立し、空き家を活用した低所得者への住宅支援事業に取り組んでいる。『貧困パンデミック』（明石書店）、『閉ざされた扉をこじ開ける』（朝日新書）、『貧困の現場から社会を変える』（堀之内出版）等、著書多数。
亀井善太郎 カメイ センタロウ 特 任 教 授	PHP総研主席研究員、政策研究大学院大学特任教授、非営利活動法人アジア教育友好協会理事長。慶応義塾大学経済学部卒業。日本興業銀行、ボストン・コンサルティング・グループ、衆議院議員、立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授等を経て現職。行政改革推進会議構成員、政策評価審議会委員、内閣官房EBPM補佐官なども務め、シンクタンカーやNPOマネジメントとして民間からの政策立案、社会変革に取り組む。著書に『実務家のための政策デザイン入門』（PHP研究所、2025年）ほか。
牧 慎太郎 マキ シンタロウ 客 員 教 授	千葉大学特任教授、全国過疎地域連盟専務理事、内閣府地域活性化伝道師、総務省地域力創造アドバイザー。東京大学法学部卒業後、自治省に入省。総務省では情報通信政策局地方情報化推進室長、自治行政局情報政策企画官、行政管理局管理官（文部科学省等担当）、地域力創造グループ地域自立応援課長、消防大学校長を歴任。奈良県地方課、北九州市企画局調整課長、島根県企業振興課長、北海道財政課長、兵庫県企画県民部長、熊本市副市長など地方経験も豊富。経済財政諮問会議「日本21世紀ビジョン」生活・地域WG委員も務めた。「山族公務員の流儀」（2021年時事通信社）、「飛び出す！公務員：時代を切り拓く98人の実践」（2021年学芸出版社編著）、時事通信社の地方行政に「山族公務員の視点」を連載中。
南 博 ミナミ ヒロシ 客 員 教 授	元外交官。1959年生まれ、東京大学法学部卒、1983年外務省入省。1984-86年英国ケンブリッジ大学留学（経済学士）。中国、英国、ジュネーブ（人権・人道担当）、ロシアに勤務する。2014-17年にニューヨークの国連代表部において、第三大使として勤務。2017-19年には東ティモール大使を務める。2023-25年にはオランダ大使を務め、その間ICC（国際刑事裁判所）などを担当する。2012-15年に日本政府の首席交渉官としてSDGsの交渉に携わり、その経験を元に「SDGs 危機の時代の羅針盤」（2020年、岩波新書、稲場雅紀との共著）を著す。

教員名	研究テーマ・略歴等
三浦 建太郎 ミウラ ケンタロウ 客員教授	特定非営利活動法人 AIMS 理事。東京大学文学部心理学科卒業、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科修士課程修了、国際医療福祉大学大学院博士課程修了（医療福祉学）。高齢者介護領域での ICT 活用の研究に加え、子どものグリーフケア・路上生活者支援・児童養護施設で生活する子どもの学習支援等、生きづらさを抱える人を支えるための様々な実践活動に従事。
宮本 聖二 ミヤモト セイジ 客員教授	早稲田大学卒業後、NHK 入社。鹿児島、沖縄放送局などを経て報道局おはよう日本、編成局チーフプロデューサー、戦争証言プロジェクト、東日本大震災証言プロジェクトの編集責任などを務め、放送局のコンテンツのネットへの展開を担当。その後ヤフー（株）に入社、Yahoo! ニュースで新聞、テレビ各社との共同取材やメディアの信頼性確保に取り組む。現在日本ファクトチェックセンターで誤情報・偽情報の検証にあたりながら情報空間の健全化とリテラシー向上教育の普及にあたる。2018 年立教大学大学院特任教授に就任し、メディア・デジタルアーカイブ研究を行う。デジタルアーカイブ学会理事、地域アーカイブ部会会長、デジタルアーカイブ推進コンソーシアム副会長。著書に「メディアとアーカイブ」（共著）など。
指田 朝久 サシタ トモヒサ 客員教授	東京海上ディーアール株式会社主幹研究員。東京大学工学部卒業。東京海上火災保険株式会社に入社し、情報システム部、リスクマネジメント業務部を経て、東京海上ディーアール株式会社設立とともに出向。危機管理、情報リスク、内部統制、事業継続計画（BCP）等の各種コンサルティングに従事。京都大学博士（情報学）、情報処理技術者システム監査、気象予報士の資格を持つ。『これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック』（2022 同文館出版）、『実践事業継続マネジメント』（第四版 2018 同文館出版：共著）、『ケースブックあなたの組織を守る危機管理』（2012 ぎょうせい：共著）他多数。「企業等事業継続・防災評価検討委員会委員」（内閣府）、「東京圏の中核機能のバックアップに関する検討委員会委員」（国土交通省）、「情報セキュリティ重要 10 分野機能演習有識者委員」（内閣官房）など政府所管委員を歴任。
塩地 博文 シオチ ヒロフミ 客員教授	ウッドステーション株式会社代表取締役会長。1960 年大分県生まれ。前職（商社）勤務時代に、「木造大型パネル」の開発に成功し、ウッドステーションを起業する。国産木材資源と木造建築のデジタルマッチングを提案する。著書は、『あたり前のいえがなぜつけれないのか』（エクスマレッジ）、『森林列島再生論』（日経 B P）。建築素材「モイス」の開発にも成功し、特許多数。
高木 徹 タカキ トオル 客員教授	ノンフィクション作家／プロデューサー 1965 年東京都生まれ。NHK ディレクター／チーフ・プロデューサーとして数多くのドキュメンタリーや報道番組、ドラマを企画制作。代表作は NHK スペシャル「ドラマ東京裁判」（国際エミー賞ノミネート）、OSINT をテーマにした BS1 スペシャル「デジタルハンター」（科学ジャーナリスト賞受賞）。並行して書籍執筆や雑誌寄稿も行い、代表作は「ドキュメント戦争広告代理店」（講談社文庫／講談社ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞受賞）、「大仏破壊 ビンラディン、9.11 へのプレリュード」（文春文庫／大宅壮一ノンフィクション賞受賞）。2025 年 8 月に NHK を退職し、現在講談社の月刊誌「群像」、新潮社の月刊誌「波」にウクライナ PR 戦や東京裁判をテーマにした連載を執筆中。「国際紛争と PR 情報戦やプロパガンダ」「国際的な視点から見た東京裁判」をテーマとしている。
梅本 龍夫 ウメモト タツオ 客員教授	慶應義塾大学経済学部卒、米国スタンフォード大学ビジネススクール卒 経営学修士（MBA）。日本電信電話公社（現 NTT）、ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン・インコーポレイテッド、シュローダー・ピーティエーヴィ・パートナーズ株式会社（現 MKS パートナーズ）、株式会社サザビー（現サザビーリーグ）を経て、独立（経営コンサルタント）。株式会社サザビーにて IPO 主導、IR 責任者。商号・商標訴訟タスクフォース責任者。同社「第 2 創業」（企業再活性化）プロジェクト総責任者。合弁事業スターバックス・コーヒー・ジャパンの立上げ総責任者。金融機関主催の経営者塾にて次世代経営者を育成。専門分野は、物語マトリクス理論、経営戦略、組織人事、マーケティング、ブランディング、パーソナリティ論、ライフストーリー論、サードプレイス論。著書：『数の神話—永遠の円環を巡る英雄の旅』（2009、コスモス・ライブラリー）、『日本スターバックス物語—はじめて明かされる個性派集団の挑戦』（2015、早川書房）。共著：『都市・地域政策研究の現在』（2019、地域開発研究所）、『競争優位に導く業務改善とイノベーション（医療経営士中級テキスト専門講座《第 7 巻》）』（2022、日本医療企画）。

教員名	研究テーマ・略歴等
吉田 敏浩 ヨシタ トシロ 客員教授	ジャーナリスト。アジアプレス・インターナショナルのメンバー。明治大学文学部卒業。早稲田大学ジャーナリズム教育研究所客員研究員。ビルマ北部のカチン人など少数民族の自治権を求める戦いと生活と文化を長期取材した記録、『森の回廊』（NHK 出版）で、1996年に大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。近年は現代日本社会の生と死の有り様、戦争のできる国に変わる恐れのある日本の現状を取材。著書：『宇宙樹の森』（現代書館）『北ビルマ、いのちの根をたずねて』（めこん）『生と死をめぐる旅へ』（現代書館）『ルポ戦争協力拒否』（岩波新書）『反空爆の思想』（NHK ブックス）『密約 日米地位協定と米兵犯罪』（毎日新聞社）『人を“資源”と呼んでいいのか』（現代書館）『赤紙と徴兵』（彩流社）『沖縄 日本で最も戦場に近い場所』（毎日新聞社）など。
若林 朋子 ワカバヤシ トモコ 客員教授	プロジェクト・コーディネーター。慶應義塾大学人間関係学科人間科学専攻卒業。英国ウォーリック大学院文化政策・経営学修士課程修了。1999～2013年（公社）企業メセナ協議会でプログラム・オフィサーとして企業が行う文化活動の推進と芸術文化支援の環境整備に従事。2013年よりフリー。企画開発、コンサル、調査研究等を行う。ロームシアター京都リサーチ・プログラムメンター、アーツカウンシルボード委員（東京・沖縄・信州・さいたま）、法人理事（芸術家と子どもたち、JCDN、芸術公社、ワンダーアート、小笠原敏晶記念財団、新井財団、H&C 財団、ひとつだけ美術館）、監事（ON-PAM、音まち計画、アーツエンブレイス、アートプラットフォーム）。『文化政策の現在3 文化政策の展望』『ソーシャルアート：障害のある人とアートで社会を変える』『アートプロジェクトのピアレビュー：対話と支え合いの評価手法』（分担執筆）。
広石 拓司 ヒロシ タクジ 兼任講師	（株）エンパブリック代表取締役。東京大学薬学系修士課程修了後、三和総合研究所（現三菱UFJ リサーチ&コンサルティング）入社。01年よりNPO 法人ETICにて社会起業家の育成に取り組む。08年5月、エンパブリックを根津にて創業。正解のない時代に幅広い人がお互いを活かしあいながら社会活動を充実させるための場づくり、コミュニティづくりに取り組む。書籍「ソーシャルプロジェクトを成功に導く12ステップ」「共に考える講座のつくり方」など著作多数。
星野 哲 ホシノ サトシ 兼任講師	立教大学社会デザイン研究所研究員、ライター。慶應義塾大学経済学部卒業、立教大学21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程修了。朝日新聞記者を経て、2016年独立。葬送・終活分野を家族やコミュニティなど人間関係の視点から取材・研究を続ける。著書に「迷惑かけてありがとう 終活から集活へ」（2024、春秋社）「人生を輝かせるお金の使い方 遺贈寄付という選択」（2021、日本法令）「遺贈寄付 最期のお金の活かし方」（2018 幻冬舎）、『「定年後」はお寺が居場所』（2018 集英社新書）「終活難民 あなたは誰に送ってもらえますか」（2014 平凡社新書）ほか。
景平 義文 カゲヒラ ヨシフミ 兼任講師	認定NPO 法人 難民を助ける会エリア・マネージャー（中東・ヨーロッパ）。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。博士課程修了後、NGO の駐在員としてケニア駐在時には教育開発、トルコ駐在時には難民支援を担当。著書に、「国家の狭間にある人たちへの教育—海を越えるシリア難民」『国際教育開発への挑戦—これからの教育・社会・理論』（荻巣崇世・橋本憲幸・川口純編、東信堂、2021年）、「トルコにおけるシリア難民支援」『緊急人道支援の世紀 紛争・災害・危機への新たな対応』（内海成治・桑名恵・大西健丞編、ナカニシヤ出版、2022年）など
川田 虎男 カワタ トヲオ 兼任講師	埼玉県立大学 准教授。NPO 法人ハンズオン埼玉 代表理事。聖学院大学ボランティア活動支援センター アドバイザー。社会福祉士。立教大学大学院博士後期課程修了（社会デザイン学博士）。大学卒業後社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会勤務。27歳から日高市議会議員を1期4年務める。その後、NPO 法人ハンズオン埼玉へ。事務局長を経て現在代表理事、埼玉県立大学准教授（地域福祉論等）。日本福祉教育・ボランティア学習学会理事、社会デザイン学会理事。主な著書「社会デザインをひらく」（編著者）、「これだけは身につけておきたいボランティアの実践スキル」（共著）、「モヤモヤのボランティア学 — 私・他者・社会の交差点にたつアクティブラーニング」（共著）、「共に育つ “学生×大学×地域” — 人生に響くボランティアコーディネーション」（編共著）ほか。

教員名	研究テーマ・略歴等
川口 智子 カクガチ トモコ 兼任 講師	演出家。東京学芸大学非常勤講師。東京学芸大学大学院総合教育開発専攻修士課程修了。現代演劇・オペラ・ミュージカル等の劇場芸術作品の演出の他、国外アーティストとの共同制作、子どもたちや地域の公共ホールとの企画・作品づくり、まちづくりのワークショップ等も行う。近年の演出作品にくにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』（作：多和田葉子）、『まちクラ』（北九州未来創造芸術祭）など。2025年3月にミヒヤエル・エンデ『モモ』を小田原市民と共に上演予定。街中で展開するワークショップやパフォーマンスも多数実施。
水島 俊彦 ミズシマ トシコ 兼任 講師	日本司法支援センター（法テラス）本部シニア常勤弁護士。厚労省成年後見制度利用促進専門家会議委員。日弁連高齢者・障害者権利支援センター成年後見・意思決定支援部会長。一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク（SDM-Japan）副代表。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。京都産業大学大学院法務研究科修了（法務博士）。法テラスの常勤弁護士として、大阪、佐渡、東京、八戸、埼玉にて司法ソーシャルワークを中心に活動。2014年より1年間英国エセックス大学人権センターの客員研究員として英国意思決定能力法と障害者権利条約に関する研究に従事。認知症の人、障害のある人、成年被後見人等を対象とする意思決定支援ガイドラインの整備や研修、トーキングマットなどの意思決定支援ツールの開発にも携わる。『事例で学ぶ福祉専門職のための意思決定支援ガイドブック』（中央法規／共編著）など。
森田 系太郎 モリタ ケイタロウ 兼任 講師	専門：環境人文学、エコフェミニズム（環境とジェンダー）。会議通訳・翻訳者。社会デザイン学会・理事、文学・環境学会・役員。立教大学 ESD 研究所・研究員、社会デザイン研究所・特別研究員、静岡大学エコフェミニズム研究所・研究協力者、韓国研究財団・研究協力者。上智大学（国際関係法 [学士]）、モントレイ国際大学院（会議通訳 [修士]）、立教大学（異文化コミュニケーション学 [修士]、社会デザイン学 [博士]）卒。編著に『環境人文学 I & II』（勉誠出版）、『ジェンダー研究と社会デザインの現在』（三恵社）が、共著に『ポストヒューマン時代のコミュニケーション学——モノと主体の関係を問い直すための視点と事例』（ナカニシヤ出版）、『環境と文学の彼方に——エコクリティシズムと新しい創造の時代』（彩流社）、『Waste and Discards in the Asia Pacific Region: Social and Cultural Perspectives』（Routledge）、『Ecocritical Menopause: Women, Literature, Environment, and “the Change”』（Lexington Books）、『Entangled and Empowered: Agency in Multispecies Communities』（Vernon Press）が、論文に「〈交差性〉を脱人間中心主義化する——エコフェミニズム再考」（『現代思想』）等がある。
森屋 雅幸 モリヤ マサユキ 兼任 講師	法政大学キャリアデザイン学部准教授。法政大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了。博士（学術）。山梨県都留市教育委員会、東京都江戸川区教育委員会、淑徳大学地域創生学部准教授を経て現職。この他、静岡文化芸術大学非常勤講師、昭和女子大学現代教育研究所研究員、法政大学エコ地域デザイン研究センター兼担研究員などをつとめる。地域のコミュニティと文化財保護・博物館活動の関わりについて研究をおこなう。著書に『人間回復の場としての地域博物館—つながりとコミュニティの生成を目指して—』（2025年、東信堂）、『地域文化財の保存・活用とコミュニティ—山梨県の擬洋風建築を中心に—』（2018年、岩田書院）など。
村尾 るみこ ムラオ ルミコ 兼任 講師	立命館大学助教。アフリカやアジアの広義の難民・帰還民の生計活動を歴史的観点から学際的に研究。NPO アフリカ日本協議会理事。専門は地域研究、人類学、難民研究。著書に「紛争後の農業再構築—アンゴラの農耕民がとった新生活戦略」「地域研究からみた人道支援—アフリカ遊牧民の現場から問い直す」（分担執筆、昭和堂、2018年。地域研究コンソーシアム賞研究作品賞および国際開発学会特別賞受賞）、「創造するアフリカ難民—紛争国周辺農村を生きる生計戦略」（昭和堂、2012年。日本アフリカ学会研究奨励賞および日本熱帯生態学会吉良賞奨励賞受賞）、「元難民の経済活動が創る場所—地域統合政策下のザンビアにおける難民セトルメントと再定住地に注目して」（文化人類学 90(2):278-293, 2025年）他。

教員名	研究テーマ・略歴等
中 村 陽 一 ナカムラ ヨウイチ 兼 任 講 師	<p>一橋大学社会学部卒業後、編集者・シンクタンク代表など民間在野での活動、東京大学客員助教授、都留文科大学文学部教授、立教大学 21 世紀社会デザイン研究科・法学部教授・独立研究科運営部長・社会デザイン研究所所長等を経て、立教大学名誉教授、青森中央学院大学特任教授、神奈川大学国際経営研究所客員研究員。社会デザイン学会前会長、一般社団法人社会デザイン・ビジネスラボ代表理事、NPO 法人市民社会創造ファンド理事、公益財団法人パブリックリソースセンター評議員、公益財団法人こどものための柴基金評議員、座・高円寺「劇場創造アカデミー」講師、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク常任顧問、株式会社ブルーブラックカンパニー代表取締役など。ニッポン放送「おしゃべりラボ～しあわせ Social Design」パーソナリティ。共（編）著に『社会デザインをひらく』（監修、ミネルヴァ書房）、『ひとびとの精神史 6』（岩波書店）、『3.11 後の建築と社会デザイン』（平凡社新書）他多数。近刊に『ソーシャルライフをひらく』（監修、ミネルヴァ書房）。</p>
仁 平 典 宏 ニハイ ノリヒロ 兼 任 講 師	<p>東京大学大学院教育学研究科教授。専門は社会学。学生の頃から知的障害児やホームレス支援のボランティア活動にかかわる中で、市民活動に称賛と冷笑を同時に浴びせかける日本社会のあり方に関心を持ち、その背景にある日本型の市民社会と国家や市場との関係について、社会学の観点から研究してきた。『「ボランティア」の誕生と終焉―〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』（名古屋大学出版会）にて損保ジャパン記念財団賞、日本社会学会奨励賞を受賞。共著に『平成史 [完全版]』（2019、河出書房新社）、『市民社会論』（2017、法律文化社）、『現代日本の市民社会』（2019、法律文化社）、『教育学年報』（2019～2023、世織書房）、『日本の寄付を科学する』（2023、明石書店）など。</p>
塗 師 木 太 一 ヌシキ タイチ 兼 任 講 師	<p>京都大学法学部卒業。総務省地域政策課係長、鳥取県食のみやこ推進課長・財政課長、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局参事官補佐、消防庁地域防災室課長補佐、総務省市町村課課長補佐などを経て、令和 7 年 4 月から富山県知事政策局次長 兼 広域連携推進監。</p> <p>総務省・内閣官房において地方創生、広域連携、公共施設の集約化、持続可能な地方行政体制の研究、地域防災などに取り組む。鳥取県では、米の新品種「星空舞」の命名、富山県では、北九州市との寿司連携協定の締結など、ブランド化にも取り組む。鳥取県財政課長在職中、「働き方改革」型の予算編成～業務カイゼンで時間外勤務 3 割減～が全国知事会から優秀政策として表彰。</p> <p>寄稿：「第 33 次地方制度調査会答申を踏まえた地方財政措置の創設等について：公共施設の集約化と専門人材の確保」（住民行政の窓（542））、「デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した地方版総合戦略の策定について」（自治実務セミナー（732））、「新型コロナ禍における自治体の予算編成：業務改革による迅速な支援策の構築」（同（709））など</p>
奥 田 裕 之 オクタ ヒロユキ 兼 任 講 師	<p>前（特非）まちぼっと事務局長。（一財）リタ市民アセット財団副理事長、未来バンク理事、ジャーナリズム支援市民基金運営幹事。市民ファンド（草の根市民基金・ぐらん、ソーシャル・ジャスティス基金など）や NPO バンク（東京 CPB、天然住宅バンクなど）の運営・設立、非営利事業への政策提案や支援などを行う。共著に「市民ファンドが社会を変える―ぐらんが紡いだ 100 の物語」（2009 年 コモンズ）、「新しい公共を担う市民企業法人と非営利バンク」（2010 年 まちぼっと）など。その他「金融商品取引法改正時における、非営利金融制度のアドボカシー活動」（2008 年）、「国土交通省国土計画局、東日本大震災復興支援プログラム作り」（2011 年）、「現場視点で休眠預金を考える会による、休眠預金制度に対するアドボカシー活動（2018 年）など。</p>
小 関 孝 子 オセキ タカコ 兼 任 講 師	<p>津田塾大学学芸学部国際関係学科卒。（株）東京ドーム他、民間企業にてバイヤー、店舗開発、事業再生コンサルティング等を担当。2013 年 9 月に立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科にて博士号（社会デザイン学）を取得。現在、（一社）社会デザイン研究所特別研究員、社会デザイン学会理事、跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授。研究分野：社会風俗史、ジェンダー史、接客論。主な著書：『夜の銀座史―明治・大正・昭和を生きた女給たち』（ミネルヴァ書房 2023）、『生活合理化と家庭の近代』（勁草書房 2015）。</p>

教員名	研究テーマ・略歴等
真田 尚剛 サナダ ナオカ 兼任講師	立教大学社会デザイン研究所研究員、東洋大学・桜美林大学非常勤講師など。博士（社会デザイン学）。専門は、日本政治外交史、国際政治学、安全保障政策。主な研究業績として、真田尚剛『「大国」日本の防衛政策——防衛大綱に至る過程 1968～1976年』（吉田書店、2021年）、秋山昌廣（真田尚剛・服部龍二・小林義之編）『元防衛事務次官 秋山昌廣回顧録——冷戦後の安全保障と防衛交流』（吉田書店、2018年）、河野康子・渡邊昭夫編『安全保障政策と戦後日本 1972～1994——記憶と記録の中の日米安保』（千倉書房、2016年、分担執筆）など。第7回日本防衛学会猪木正道賞奨励賞受賞（2021年）。
佐野 敦子 サノ アツコ 兼任講師	社会デザイン学（博士）。静岡大学 DE&I 推進室講師。国立女性教育会館専門職員（eラーニング担当）、東京大学大学院情報学環特任研究員、立教大学ジェンダーフォーラム教育研究嘱託等を経て現職。中央大学文学部社会学科卒業後、コミュニティ FM・官公庁関連のコンテンツ制作、ベルリンにて撮影コーディネーションを経験後、ネットラーニング社にてeラーニングの開発を担当、並行して立教大学21世紀社会デザイン研究科に進学。ドイツ・ボン大学への研究派遣を機に退職し、学位取得。日独社会比較を軸にした研究を展開し、これまでに移民の社会統合、成人教育、デジタル化・ジェンダー政策等を扱う。著書に『デジタル化時代のジェンダー平等—メルケルが拓いた未来の社会デザイン』（春風社 2023, 社会デザイン学会奨励賞受賞）、『AI から読み解く社会—権力化する最新技術』（東京大学出版会 2023）等がある。
東海林 克也 シヨウジ カツヤ 兼任講師	淑徳大学地域創生学部助教。博士（社会デザイン学）。（公財）中村元東方研究所専任研究員を経て現職。専門分野は日本思想史学、日本文学（中古）、地域社会学。日本思想（神仏習合思想）・日本文学（中古）・地域の社寺と民衆信仰・地域との関りを学際的に研究している。主要論文に「神仏習合と『日本霊異記』上巻第二縁との関連について」（『21世紀社会デザイン研究』2020）や「『美少女戦士セーラームーン』の聖地巡礼と氷川信仰による集合表象：淑徳大学地域創生学部における2つの演習によるアクティブラーニング」（共著、『淑徳大学地域創生教育研究センター年報』2025）など。
高宮 知数 タカミヤ トモカズ 兼任講師	立教大学社会デザイン研究所研究員。東日本国際大学地域振興戦略研究所客員教授。座・高円寺劇場創造アカデミー講師。（株）ファイブ・ミニッツ代表。社会デザイン学会理事。NPO 法人文化の居場所研究所代表理事。マーケティング・プロデューサー／プロジェクト・デザイナーとして、神田淡路町・ワテラス、鶴岡市・FOODEVER、パルテノン多摩大規模改修、多摩市文化芸術振興条例策定などの文化施設やまちづくりを手掛ける他、上海万博日本館ライブショー総合演出補佐、久留米シティプラザ初代館長、文部科学省大学設置・学校法人審議会・大学設置分科会専門職大学専門委員（芸術）などを務める。近著に『21.5世紀の社会と空間のデザイン』、『ビルディングタイプ学入門』（以上2冊共著、誠文堂新光社）、『街直し屋：まちとひとを再生させる仕事』（共著、晶文社）
寺中 誠 テラナカ マコト 兼任講師	社団法人アムネスティ・インターナショナル日本元事務局長、東京経済大学教員。主な研究分野は、刑事政策論、犯罪学理論、グローバル化と犯罪、国際人権法など。人権分野や環境分野の国際 NGO の運営・調査活動に従事している。近年は企業活動と人権との関わりについても実践的に取り組む。著書に「ぼくのお母さんを殺した大統領を捕まえて—人権を守る新しい仕組み・国際刑事裁判所」（合同出版）、「入門・国際刑事裁判所—紛争下の暴力をどう裁くのか」（現代人文社）、「裁判員と死刑制度」（新泉社）、訳書に「ヘイトクライムと修復的司法」（明石書店）他。

以上